

医療者も家族も、みんなで知ろう認知症！

認知症の人の 生き方に向き合う

「薬で先延ばしする認知症治療ではなく、避けられない老化や死を含め、認知症と向き合うことを考える」シンポジウム。医療者も家族も、みんなで認知症を正しく知り、理解することで、介護の質も介護に対するイメージも変わってくるはずです。

第15回 日本在宅医学会大会  愛媛

平成25年 3月31日  9:00～12:00

会場：ひめぎんホール（愛媛県県民文化会館）真珠の間 A
〒790-0843 愛媛県松山市道後町 2 丁目 5 番 1 号

<http://www.tampopo-clinic.com/zaitaku2013/>

共催：第 15 回日本在宅医学会大会 / エーザイ株式会社

企画にあたり、「認知症治療薬が多数発売される中、薬で先延ばしするだけの治療ではなく、避けられない老化や死とどう向き合っていくかを考えたい」との趣旨を永井大会長より頂戴しました。

小医自身、精神科医・内科医として日々認知症診療に携わりながら、「現在の認知症診療の多くは、本人不在で介護者主体の診療形態が主であり、告知もままならず、丁度、20年前のガン治療に良く似ている」と感じ、地域住民への疾患啓発に取り組んでいます。

4 疾病時代のガンのように、認知症も正しい疾患啓発をしっかりと行っていくことで、疾患への理解が進み、きちんとした告知が行え、早期発見・早期治療、本人主体型の医療が可能となるものと思います。

中島孝先生(国立病院機構新潟病院)は、「本来、緩和ケア、難病ケアにおける告知の目的は、患者の信頼関係を作ることにある」と述べられています。説明しづらい良くない話を相手の心をおもいやりながら工夫しながら知らせる過程で、医療従事者は患者から信頼を得ていきます。不可逆的に悪化していく病態に対して適切な援助を継続するためには、患者・ご家族との信頼関係が不可欠であり、だからこそ告知は重要なのです。不可逆的に進行していく認知症においても、告知の一番の目的は、「死の受容」や「疾患の受容」ではなく、患者・家族との信頼関係のもとで、認知症になっても人は生きている限り適切なケアが受けられ、幸福に過ごせるはずだという価値の共有にあるはずで、避けられない病態の進行、老化や死としっかり向き合いながら、治せないことを共有した上で、亡くなるまでどう生きるかをご本人・ご家族と一緒に考えていくことが大切ではないでしょうか。

平成 25 年度以降の医療計画に記載すべき疾患に、精神疾患を追加した「5 疾病 5 事業」が盛り込まれることが決まり、認知症医療は新たな局面を迎えています。平成 24 年 6 月 18 日には厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチームによる「今後の認知症施策の方向性について」が出され、その中で過去 10 年間の認知症施策を「反省」し、「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指すための方向性が述べられております。そのような中、本シンポジウムは非常にタイムリーな内容であり、座長・演者には、認知症の人やご家族の生き方に向き合う支援をすでに実践されている本邦の第一人者の先生方や、家族会の方をお迎えしております。すでに認知症高齢者は現時点で 300 万人を超え、65 歳以上の 1 割を占めています。高齢になるほど認知症罹患率は増えることから、急激な高齢化や疾患啓発に伴い、今後著増する認知症高齢者への支援のあり方は本邦の社会保障を大きく左右します。

本会が認知症当事者やご家族、そして地域に対して、認知症支援における在宅医療の役割を再確認し、深め合える場になれば幸いです。

<医療法人仁恵会佐伯保養院 山内勇人>

演者

企画・演者 医療法人仁恵会佐伯保養院 副院長 山内勇人先生
 座長 梶原診療所 院長 平原佐斗司先生
 座長 愛媛大学大学院医学系研究科脳とこころの医学 准教授 谷向知先生
 演者 医療法人社団こだま会こだまクリニック 院長 木之下徹先生
 演者 公益社団 認知症の人と家族の会 会長 高見国生先生
 演者 認知症介護研究・研修東京センター 副部長 永田久美子先生
 演者 社会福祉法人ロザリオの聖母会海上療養所 副院長 上野秀樹先生

■参加方法

<http://www.tampopo-clinic.com/zaitaku2013/>

【参加費用】

参加区分	事前申込
医師・歯科医師 (日本在宅医学会員)	10,000
医師・歯科医師 (非会員)	11,000
コメディカル・一般 (日本在宅医学会員)	3,000
コメディカル・一般 (非会員)	4,000
学 生	2,000
抄 録 集	1,000

【申込方法】

大会ホームページの「参加申し込み」のページよりお申込みください。

※当日申込は、事前申込(2月28日まで)より1,000円高くなります。(学生、抄録集をのぞく)

※参加証は、大会2日間有効です。

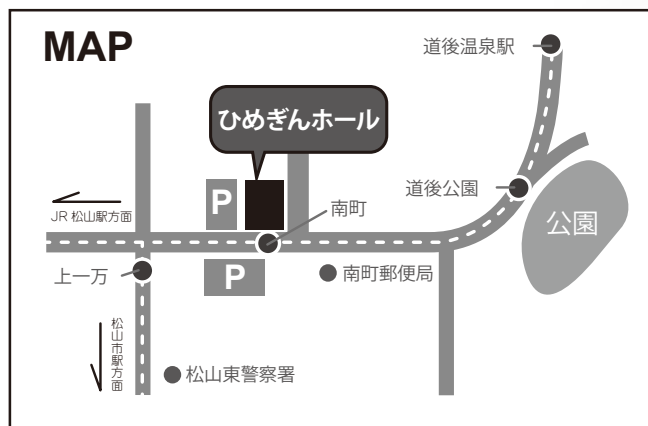
※2日間とも企業協賛によるランチョンセミナー(無料のお弁当付)が多数実施されます。

※事前申込は、2013年2月28日(木)までです。

これ以降は当日申込となりますので、宿泊、懇親会の予約申込はできません。

会場：ひめぎんホール

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2丁目5番1号



四国・松山 湯のまち 道後温泉へ

大会の開催会場(ひめぎんホール)は、道後温泉から路面電車で約3分の近さ! 2013年の日本在宅医学会大会は、春爛漫の温泉地での開催です。

あのミシュランガイドブックに☆☆☆で紹介されたこともある「坊ちゃん湯」は市営の公衆浴場。築110年余の木造三階建てで、国の重要文化財指定、『千と千尋の神隠し』の油屋のモデルになったともいわれる有名な場所です。

第15回日本在宅医学会大会事務局

〒791-8056 松山市別府町444-1

医療法人ゆうの森 担当: 木原・前島

TEL: 089-911-6333 E-mail: zaitaku15@tampopo-clinic.com